

# 特集 孤独死の保険を追う

## アイアル少短・安藤克行社長に聞く

### 大手管理会社と代理店契約増加 業界にも「お一人さま社会」の影響

孤独死の場合、遺族がいなくても遺族がいても遺体の引き取り拒否や相続を放棄するケースもあり、オナーが諸費用を回収できないことが多いという。

「なぜ捨てたのか」など、とでも水が重く減っていき、それが体の半分以上は水分。孤独死で発酵がすすむと、多量の体液が時間とともに床下へと浸透していき、量が増えれば回収が難しくなる。フロリングの場合、フロリングの隙間は隙間から階下や建物の基礎にまで浸透していき、と。



安藤氏

「お一人さま社会」の影響が、フロリングの場合、フロリングの隙間は隙間から階下や建物の基礎にまで浸透していき、と。

「なぜ捨てたのか」など、とでも水が重く減っていき、それが体の半分以上は水分。孤独死で発酵がすすむと、多量の体液が時間とともに床下へと浸透していき、量が増えれば回収が難しくなる。フロリングの場合、フロリングの隙間は隙間から階下や建物の基礎にまで浸透していき、と。

「なぜ捨てたのか」など、とでも水が重く減っていき、それが体の半分以上は水分。孤独死で発酵がすすむと、多量の体液が時間とともに床下へと浸透していき、量が増えれば回収が難しくなる。フロリングの場合、フロリングの隙間は隙間から階下や建物の基礎にまで浸透していき、と。

### アイアル少短 孤独死の保険 本格的に機能する時代

#### 30代男性死亡で初の支払い事例

賃貸住宅での孤独死が大きな社会問題となっており、孤独死の保険が注目を集めている。一度、賃貸住宅で孤独死が発生すると、オナーは特殊清掃費用や遺品撤去費用、修繕費用などが発生し、家賃収入も失う。そうした背景の下、損害保険会社や少額短期保険会社から相次いで孤独死に

対応する保険が発売された。今回、アイアル少短では30歳代の男性が孤独死し、初の支払い事例と

なった。今年に入り、他社でも支払い事例が発生するなど、日本の社会問題を背景に誕生した孤独死の保険が本格的に機能する時代を迎えた。

アイアル少短で初の支払い事例となった孤独死の男性は年齢30歳代で脳梗塞(こうそく)で死亡

した。死後2、3週間経過後に発見された。今回のケースで賃貸住宅のオナーは、遺品整理60万円、特殊清掃(清掃と消毒)とリフォーム費用を含めて260万円、トータル320万円を原状回復費用として支払っている。その後の家賃収入も途絶えた。こうした事実が意味するのは、孤独死が高齢者だけに限ったことではなく、さらに高額な費用負担が発生するということだ。(2面に関連の特集記事)

#### 誰が原状回復費用を負担するか

孤独死の場合、オナーはその後の家賃収入の1は、死後2、3週間経過後に発見された。今回のケースで賃貸住宅のオナーは、遺品整理60万円、特殊清掃(清掃と消毒)とリフォーム費用を含めて260万円、トータル320万円を原状回復費用として支払っている。その後の家賃収入も途絶えた。こうした事実が意味するのは、孤独死が高齢者だけに限ったことではなく、さらに高額な費用負担が発生するということだ。(2面に関連の特集記事)

#### ミサワホームなど代理店提携

アイアル少短ではミサワホームと代理店提携を開始したことを8月に発表した。そのほかにも

大京グループの大京リアルド、大京アステージが商品を取り扱い始めている。ミサワホームが「ほっとオナー」、大京グループが「おんなさま」の家賃カードのニックネームを提供しており、ミサワホームでは本社が採用したことで、グループ各社が登録を活性化している。大手企業が代理店に決まったことで、全国各地の管理会社から問い合わせが増えている状況だ。

安藤氏は「課題は、オナーが孤独死をまだ遠い問題と感していることだ」と言。過去に経験のあるオナーからは「保険を待ち望んでいた」という声がある一方、経験のないオナーにはリスクが理解されにくい現状がある。従って、商品の説明よりも社会的な責務などの啓発から伝えることが欠かせないという。

安藤氏は来年、孤独死に関連したセミナーも予定しており、主に孤独死事故の初動対応に重点を置くことを考えている。孤独死の場合、初期対応が遅れたり、対応を間違えると周囲の居住者が退去する2次被害につながる。そうした被害を出さないためにも、孤独死の問題をリスクマネジメントの一環として、しっかりと伝える必要があると強調する。

(1面参照)